

日本語先生奮闘記

中国で思う外国語教育のあり方

梅田星也 著

大修館書店



口本語先生奮闘記

——中国で思う外国語教育のあり方——

梅田星也 著



梅田星也 (うめだ・せいや)

1929年生まれ。北九州大学卒業。米軍小倉キャンプ勤務を経て教職に就き、高校で英語教師を務める。

1987年から中国・湖南省長沙市在住。長沙大学外国語学部日本語科で第一外語（日本語）を教えている。宿舎となっている専家招待所という外人住宅には、米英独からの教師も一緒に住んでいる。

日本語先生奮闘記

© S. Umeda, 1993

1993年11月15日 初版発行

本体価格1,500円

著 者 梅 田 星 也

発行者 鈴 木 荘 夫

発行所 大 修 館 書 店

〒101 東京都千代田区神田錦町3の24

電話 (03) 3295-6231 (販売部) / (03) 3294-2355 (編集部)

振替 東京9-40504

挿画／立花尚之介 製版・印刷／錦明印刷 製本／三水舎

ISBN4-469-24343-4 Printed in Japan

まえがき

「先生、わたしは英語も横好きです」

「えっ、ヨコズキ？　なんですか、それ？」

「あらっ、専門でないことも好きなことです。辞書にそう書いてありました」

こんな愛すべき学生を相手にしながら私は一九八七年から中国の大学で日本語を教えている。中国は最近日本語ブームで、NHKの短波放送を聞いたり、テレビで「楽しい日本語」という講座を見たりしている人の数は推定で二百万を超えるといわれている。

私が住んでいる湖南省の長沙市には、湖南師範大学、湖南医科大学、長沙鉄道大学、長沙中医学院（中医Ⅱ中国医学）、国防技術大学、中南工業大学、長沙大学などがあり、日本語を第一外語、あるいは第二外語として教えている。そして私は長沙大学外国語学部日本語科で第一外語としての日本語会話、応用作文、日本社会などを担当している。

学生の日本語学習の進歩は大変速い。三年生ともなれば、わが家に遊びに来て、友人関係や恋愛問題から教師の批評や世界のニュースなどについて二時間ぐらいいしゃべって帰る。

中国に来る前は高校の英語教師をしていたので、すぐ「中国人の日本語」と「日本人の英語」とを比較してしまふ。日本の新聞や雑誌は、学校の外国語教育ではもっと英会話をやってほしいと言ふ。しかし私はこの「会話」という言葉が好きではない。会話とは「これいくらですか」「三千元です」という程度のものだらうという気がしてならない。日本の英語教師の多くは、このようなレベルの外国語ならば学校教育でやることはないと思つてゐる。私もそうだ。

ある国語辞典には「会話とは（日常生活において）用を達するための話のやりとり」となつてゐる。だから英会話と聞けば「これを一つください」というようなことを英語で言えればよいのだらうと思う人もある。しかし中国では「日本語会話」と言えば、日本語を使用して日本人といろいろな話ができるということの意味している。楽しくおしゃべりができるということも意味している。子供の頃私がおしゃべりをするとう祖父（明治六年生まれ）は「男の子はべらべらしゃべるものではない」と叱つた。今でも「上手に話す」ということを「軽薄なこと」と感じる人もいるかもしれない。しかし私の学生で日本語を上手に話す人たちは、作文（書くこと）も上手で人物も立派である。

ところで学校教育での外国語には限界がある。中国の日本語教科書には「生まれ！」や「金を出せ」などの会話文は出てこない。日本の英語の教科書にも「フリーズ・動くな」という単語は出てこない。またそれを教えるような場面設定もない。日本では子供でも知つてゐる言い方を中国人の

学生が知らないでも仕方がない。アメリカ人なら誰でも知っている単語を日本人が知らないでも学校英語の責任ではない。

私は中国で日本語を教えながら、さまざまな経験をもとにしてこの本を書いた。(蛇足ながら、登場する人物名は仮名である。)これを書くにあたって、ひとかたならぬご援助とご指導をいただいた恩師河上道生先生(広島女子大学学長)と、原稿に最初に目を通していただいた大修館書店の鶴沢敏明氏および編集作業でいろいろお世話になった河合久子氏に衷心よりお礼を申し上げます。

一九九三年九月

著者

日本語先生奮闘記—目次

第一章 歌を一首歌ってください

「手を切った」のは誰ですか 2

歌を一首歌ってください 5

「バカ」さわぎ 8

「サン、ハイ」 12

通じない「カギっ子」 15

ののしり言葉 19

年齢相応の質問 22

冗談より大事なこと 26

日曜日の英語角 31

「ちょっと」のゆとり 35

「サル真似が上手」はほめ言葉？ 39

卒業試験はファッションショー 42

脅威のカタカナ語 46



桜花馥郁たる秀麗な国、日本	51
国際語、日本語	54
「陳さんなど」は何人か?	57
ブラマイー	60
お箸文化圏のイエスとノー	62
第二章 日本語教育こぼれ話	68
かわいい赤ちゃんはかわいそう?	71
「死んでいる」はまだ生きている?	77
てまえ生国と発しまするは…	80
リンゴの皮膚	82
能動態と受動態	84
敬語と忠告	87
ていねいな命令	92
外国語で話せる喜び	98
ニュアンスを伝える一字	



第三章 異国で思う日本の英語教育

エケセテネ：

101

語感というもの

105

不確かな「確か」

110

中国式質問法

114

外国語の実習

118

中国に生きる「へつつい」

121

日本語学習一年、必死の通訳

128

文脈なしの質問

131

中国人の英語教育観

137

学ぶ甲斐、教える甲斐

140

誤解される日本式謙遜

143

虎の巻の効用

145

海外研修の効果

149

文法の大切さ

153



小道具と想像力	158
教科書とメモ	164
単語を覚える方法	167
たとえよちよち歩きでも	170
何のためのテストか	173
発音について	178
「分かりやすい」日本語ということ	182
イエス、ユー・メイの無礼さ	185
文法はあとまわしに	189
英語のシャワー	193
本文軽視か本文重視か——日中の教科書観	198
自習のできる教科書を望む	204



第一章 歌を一首歌ってください



「手を切った」のは誰ですか



中国は広い。上海から私の住んでいる長沙まで急行列車で二十七時間もかかる。

日本は狭い。南北に長くて幅が狭い。狭いは英語ではナロー (narrow) だから、ジャパン・イズ・ナローだ。ネクタイのように幅が狭い。

私の部屋は狭い。しかし正方形に近い型で、幅は狭くない。私の部屋はスモールではあるがナローではない。日本で外人に英語で

「私の書斎は四畳半で非常に狭い (narrow)」

と言ったことがある。その外人は、畳四枚半がタテ一列に並んだ細長い日本間を想像した。

日本語は面積が狭くても、道路の幅が狭くても、どちらでも狭いで通じる。それを中国人は「狭」という漢字で察してくれる。「狭窄 (ナロー)」と「狭小 (スモール)」であるが、「狭」でわかるようだ。

しかし中国人は「この間」(さきごろ・先日)を「どこの間だろうか?」と思う。あるいは何月何日から何月何日までの間だと思うようだ。作文を書かせると、何人も間違える。日本語の先生さ

えも間違える。

ある日本語の先生は「先頭を切る」を学生に説明して次のように言ったそうだ。

「先頭にやってくる者をまずきり殺す。そうすると後続の列は乱れて統制が取れなくなる。戦場では先ず先頭に来るものを撃つとよい。中国解放軍は指揮官が先頭に立って進んだ。日本軍は、これを知っていたのだ。蒋介石軍は指揮官が一番最後についていた」



長沙に来て間もないころ、日本語の先生が質問を持って聞きに来た。

「と手を切る」がわからないという。

「私は彼女と手を切った」

はこういう意味ですかという質問であった。「私は彼女の手を切った」はわかる。しかし「と」は「友達と遊んだ」というように、「と一緒に」の意味だろう。すると「私は彼女と一緒に手を切った」のですか。今血が出ているのは彼女の手ですか、私の手ですか」というのが第一問であった。

第二問は、

「バイオリンを練習したが、三か月で音^{おと}を上げた」

であった。三か月もすれば、力強い音が出るであらう。高音の高いところまでひけるようになるであらう。しかしこの漢字の「音」は「ネ」と読まなければならぬ。中国の漢字の「音」は「おと」

「手を切った」のは誰ですか

の意味しかない。彼は「おと」と読んだ。だから意味がわからなかったのだ。

第三問は日本の新聞記事であった。

「彼は食い物にされた」

である。「食い物」は中国人には「食物」としか目に入らない。人間は食物ではないので、変だと直感したのだ。

九州工業大学に来ていた外国人留学生から「三途の川は何県にありますか」と聞かれたことがある。「変だ」と直感したら、それを母国語とする人に聞く必要がある。

歌を一首歌ってください



山口百恵は大スターだ。中国人の学生で山口百恵の名を知らぬ者は一人もない。それは二、三年前に一度は繰り返して放映される「赤い疑惑」のせいだ。中国名「血疑」として有名である。

学生からは非その主題歌「ありがとうあなた」を教えてくれと頼まれた。テレビでは中国語をしやべる山口百恵も、バックに流れる主題歌だけは本人の声である。日本からテープを取り寄せた。歌詞は家内がガリ版で印刷した。

テープを流すと女子学生は全員が山口百恵になりきって歌う。とくに

ありがとう あなた

あとののくらい生きられますか

のところは完全に夢の中だ。見ていて私はテレしてしまう。

教え子の男性が国際旅行社のガイドになった（ガイドの収入は大学助教授より多い）。彼は私から習った「無錫旅情」で絶賛を博したと、いばっていた。日中合弁会社の男性通訳は「命くれな」一本である。